

## レビ記23章1-22章「春の祭り」

### 1A 安息日 1-3

### 2A 主の例祭 4-22

#### 1B 過越の祭り 4-8

#### 2B 初穂の祭り 9-14

#### 3B 五旬節 15-22

## 本文

レビ記 23 章をお開きください。レビ記後半部分は 17 章から 27 章までですが、ここ 23 章から大きな分岐点になります。それは、約束の地に入った時の土地とその収穫に関するおきてです。彼らは今、荒野にいます。幕屋も建てられていて、いけにえも献げることができますが、作物の収穫は当然ながら、望めません。カナンの地に入り、定住してからそこから出てくる収穫があります。それを主に献げして、その恵みを喜ぶように神は定められます。祭りを祝うのです。

23 章では、例祭と呼ばれる、例年行う行事を教えられます。「七つの祭り」を見ていきます。私たち日本人も、例年の祭りがありますね。正月が最も大きな祭りで、夏には盆というのがあり、正月から夏まで、夏から年末にかけてもあります。その時節に「祭り」を行うというのは、私たちの生活深く影響を与える行事であります。たとえ私たちが聖書の話を読み、それを理性的にその通りだと同意できても、理屈抜きで自分たちの生活があります。その生活を変えてまで、その信ずるべき事柄に自分を捧げることができるのか？という悩みを私たちは抱えています。

けれども、実は聖書の中でイスラエルの共同体は、「例祭」という神ご自身が定めたものがあります。これをユダヤ人たちは、国をあげて守っています。宗教的な人は特に、毎週の安息日はもちろんのこと、これら一つ一つの祭り、大切な行事としてしっかり守っています。祭りは家族単位で行われるので、彼らは家族の絆はとて強いのです。

祭りというのは、単に教えを受けてそれを理解するだけでは決して得られない、大切な営みを与えます。それは、献げるといふ行為です。私たちは、週の初めに礼拝を献げることが、どれほど日々の生活に影響を与えていることでしょうか。そして週の半ばに、平日の聖書の学びもあっても、生活の霊的なリズムをさらに活発にさせることでしょうか。ただキリスト教会、特にプロテスタントの教会は、それ以外は盛大な行事は行いませんね。クリスマスと復活祭のみです。

それからイスラエルに命じている祭りは、家族の行事でもあることです。家族ぐるみで参加するので、私たちの生活の現場、すべての基盤になっている家庭生活が安定するのです。日本におい

ては、その対象が神仏合一といって、神道のカミと仏教の仏をいっしょくたにしたものに献げているのですが、それが家の意識を作っています。しかし教会で私たちは主をほめたたえ、御言葉を分かち合います。そして、合同修養会などのイベントを通して、バーベキューなどでいっしょに集まって交わるのです。その交わりは、単に聖書の勉強だけでは味わえない、かけがえのない神の家族としての意識が身に付くのです。

そしてレビ記 23 章が、キリストを信じる私たちにとって最も大事なものは、新約聖書の中にはっきりと適用されていることです。これらが、メシアの働きに深く関わっているのです。春の祭りについては、イエスにあって、その祭りの日にご自身が死なれ、よみがえられ、そして聖霊が降りました。そして、次回学ぶ秋の祭りには、メシアが再び到来することを予告しています。このように、神の救いのご計画全体を映し出しています。イスラエル人は、まだ知らされていなかったキリストの働きについて、七つの祭りによってそれを自分たちのものにする、共同体のものにするように定められていたのです。私たち教会は、このキリストの働きの中に生きています！

### **1A 安息日 1-3**

<sup>1</sup>主はモーセにこう告げられた。<sup>2</sup>「イスラエルの子らに告げよ。あなたがたが聖なる会合として召集する主の例祭、すなわちわたしの例祭は次のとおりである。

聖なる会合として集まりなさい、と主は命じておられます。過越の祭り、種なしのパンの祝い、初穂の祭り、五旬節、ラツパを吹き鳴らす会合、宥めの日、そして仮庵の祭りです。合計七つあります。このうち代表的なものは、過越の祭り、五旬節、仮庵の祭りの三つです。これらは、世界中にいるユダヤ人成年男子が、必ず出席しなければいけない祭りとして、数えられています。

これらの祭りは、先に話しましたように、収穫祭です。初穂の祭りは、春の初めに収穫される大麦の初穂を、主におささげする祭りです。五旬節は、春の終わりに収穫する小麦の初物を献げます。そして秋の仮庵の祭りにおいては、いちじくの木の実、オリーブ、ぶどう、なつめやしなどの収穫の後に行なわれます。

今、イスラエルが、シナイ山の荒野のふもとにいることを思い出してください。これらは、彼らが約束の地に入ってから、与えられるところの収穫を前提にして、主がお語りになっているのです。私たち人間は、荒野にいるときには、水や食料などの備えのために、主に必要を満たしていただくために、祈り、主に拠り頼みますが、豊かになるときに神を忘れてしまいます。そこで、主は、収穫物をご自分にささげるように命じられることによって、イスラエルがいつまでも、主を信じ、主のうちにとどまることを学ばせようとしてきました。

クリスチャンになれば、日本人の持つ行事、神道や仏教にしたがった祭りはお祝いしません。先

祖のしきたりから解放され、これらの儀式は偶像礼拝なので行なわれないようになります。けれども、それでは、私たちは、それらに代わる新しい死生観、あるいは人生観を持っているでしょうか？ 日々の生活の中で、自分が何から始まり、何によって成り立ち、そしてどこに至るのかを意識しながら、生きているでしょうか？

しかし私たちクリスチャンは、はっきりとした時間の流れを持っています。私たちは、そのご計画の中で生き、存在しています。そして、このご計画がみなさんの心と思いの中ではっきりとしているときに、自分が日々どのようにして生きればよいか、神のみこころを理解できるようになるのです。

<sup>3</sup> 六日間は仕事をする。しかし、七日目は全き休みのための安息日、聖なる会合の日である。あなたがたは、いかなる仕事もしてはならない。この日は、あなたがたがどこに住んでいても主の安息日である。

主は、例祭についての教えの前に、週ごとに守られるべき安息日についてお語りになっています。このときは、いっさい仕事をしてはならず、みなが集まって主を礼拝します。そして、それが「聖なる会合」であり、主にあって聖いことなのです。これから読んでいく例祭においても、全き休みを得なさいという命令を読むことでしょう。今のイスラエルに行くと、安息日がどのようなものを体験できます。日本の正月元旦の時よりも、休みます。そして彼らは、祭りも守ります。かなり多くの日が安息になります。

なぜ、主は、休むことをそこまで強く命じられて、これを「聖なる会合」とお呼びになっているのでしょうか？ 安息するとは、自分の働きではなく、主ご自身の働きを認めることだからです。自分の行ないをやめ、主の行ないを認めることです。私たちが、だれかのことを知りたいと思うとき、自分が動くことをやめ、立ち止まって、その人の姿や行なっていることを、じっくりと見るでしょう。それと同じことです。私たちが、主にあって聖なる者と認められるには、自分ではなく主ご自身の姿やお働きをじっくりと見、ながめることが必要なのです。

コロサイ2章には、「2:16-17 こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは祭りや新月や安息日のことで、だれかがあなたがたを批判することがあってはなりません。これらは、来たべきものの影であって、本体はキリストにあります。」とあります。安息日は、本体であるキリストの影であると、使徒パウロは言っています。私たちは、クリスチャンとして聖なる歩みをするために、自分の働きをやめ、キリストが行なわれた、みわざの中に休む必要があるのです。

## **2A 主の例祭 4-22**

### **1B 過越の祭り 4-8**

<sup>4</sup> あなたがたが定期的に召集しなければならない聖なる会合、主の例祭は次のとおりである。<sup>5</sup> 第

一の月の十四日には夕暮れに過越のいけにえを主に献げる。

主への例祭は、過越の祭りから始まります。第一月とあるとおり、この祭りをもってユダヤ人の暦が始まります。過越の祭りは、イスラエルがエジプトから贖い出されたことを祝うところの祭りです(出エジプト 12 章)。エジプトの王ファラオが、イスラエルの民をエジプトから出て行かせませんでした。主は、エジプトに九つの災いをお下しになりましたが、それでもファラオは心をかたくなにしています。そこで主は、最後の災いとして、エジプトの長子をみな殺すと言われました。けれども、主は、イスラエルに対して、傷のない一歳の子羊を用意して、それを食べなさいと命じられました。その血は、家の門の鴨居と門柱につけなさい、と命じられています。そして、イスラエルがそのとおりに行なうと、死の御使いは、血のついた家を通り越して、血のついていないエジプトの家だけに入り、男の子を殺しました。こうしてイスラエルの家には、主の裁きが通り越したのです。

この祭りは、イエス様が地上におられる時にも続いていました。イエスさまがバプテスマのヨハネに現われたとき、彼は、イエスさまを「見よ、世の罪を取り除く神の子羊。(ヨハネ 1:29)」と呼びました。そしてイエスが、十字架につけられる前夜、弟子たちと過越の食事をしておられました。パンを裂いたときに、「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを与えてこれを行ないなさい。」と言われ、ぶどう酒の杯は、「この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。」と言われました(ルカ 22:20)。そして、イエスは、過越の祭りの時に十字架につけられ、死なれました。そうです、イスラエルが食べ、血を門の鴨居と門柱につけたその子羊は、イエス・キリストご自身を示していたのです。

過越の祭りが、この後のすべての祭りの出発点になっており、この祭りによって他の祭りが成り立っています。すべての土台になる祭りです。私たちの主イエス・キリストが十字架の上で死なれ、血を流してくださった、このことが私たちの信仰の土台であります。私たちの奉仕は、どのような動機から始まっているのでしょうか。「私は罪人であったのに、神はキリストを死に渡されることにより、ご自分の愛を示してくださったのだ。」ということから始まっているのでしょうか？私たちの信仰生活とその実践の全ての始まりは、ただ、この「キリストの愛」に突き動かされているものです。

<sup>6</sup> この月の十五日は主への種なしパンの祭りである。七日間、あなたがたは種なしパンを食べる。

<sup>7</sup> 最初の日に、あなたがたは聖なる会合を開く。いかなる労働もしてはならない。<sup>8</sup> 七日間、食物のささげ物を主に献げる。七日目に聖なる会合を開く。あなたがたは、いかなる労働もしてはならない。」

過越の祭りはそのまま、種なしパンの祭りに続きます。しばしば、一つの祭りとして表現されます。ここでいうパン種とは、パンをふくませるところのイースト菌のことです。イスラエルの民は、この祝いの前に、家の中にあるパン種をくまなく探し、家の中からパン種を取り除きます。そして七

日間、種のないパンを食べます。初めの日と最後の日は仕事をしてはなりません。そして、この七日間、火によるささげもの、つまり、牛や羊、やぎなどの家畜を祭壇にて火で焼くようにします。

聖書において、パン種は悪いものの型となっています。少しイースト菌を入れると、それがパン全体に広がるように、罪は、わずかであっても全体に広がる性質を持っています。そこでパウロは、コリント人たちに手紙を書いたときに、こう言いました。「I コリ 5:6 あなたがたが誇っているのは、良くないことです。わずかなパン種が、こねた粉全体をふくらませることを、あなたがたは知らないのですか。」したがって、種を入れないパンを食べることは、罪が取り除かれたことを示していたのです。パウロはコリント人たちに、続けてこう言っています。「5:7-8 新しいこねた粉のままでいられるように、古いパン種をすっかり取り除きなさい。あなたがたは種なしパンなのですから。私たちの過越の子羊キリストは、すでに屠られたのです。ですから、古いパン種を用いたり、悪意と邪悪のパン種を用いたりしないで、誠実と真実の種なしパンで祭りをしようではありませんか。」

したがって、種なしパンの祝いは、罪が全て取り除かれたことを祝っているのです。これが過越の祭りセットになっているわけがあります。過越の祭りが、キリストの流された血を示していますが、その血によって、私たちの罪が取り除かれたのです。

## 2B 初穂の祭り 9-14

<sup>9</sup> 主はモーセにこう告げられた。<sup>10</sup>「イスラエルの子らに告げよ。あなたがたがわたしが与えようとしている地に入り、収穫を刈り入れたなら、収穫の初穂の束を祭司のところに持って行きなさい。

<sup>11</sup> その束は主の前で揺り動かす。あなたがたが受け入れられるためである。祭司は安息日の翌日、それを揺り動かさなければならない。

これは大麦の収穫の初穂を、主におささげする祭りです。祭司がそれを、主の前に前後に揺り動かして、この収穫を主に受け入れられるようにします。これは、安息日の翌日、つまり日曜日であり、過越の祭りの三日目に行なわれます。

イエスが、死なれてから三日目に行なわれたことを思い出してください。主が過越の祭りの日に死なれ、墓に葬られました。安息日が終わり、日曜の夜明けに女たちが、イエスに香料を塗ろうと墓にやって来ました。墓の石は取り除かれており、そこに御使いがいて女たちにこう言いました。「この方はここにはおられません。よみがえられたのです。」そうです、初穂の祭りはイエス・キリストの復活を表していたのです。使徒パウロはこう言いました。コリント人への手紙第一 15 章 20 節です。「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」したがって、私たちの生活は、キリストによって罪が赦されたというだけでなく、キリストの命にあって新しくされた、その復活の力に拠り頼む者です。(ガラテヤ 2:20)

<sup>12</sup> あなたがたは、束を揺り動かすその日に、主への全焼のささげ物として傷のない一歳の雄の子羊を献げる。<sup>13</sup> その穀物のささげ物は油を混ぜた小麦粉十分の二エパであり、主への食物のささげ物、芳ばしい香りである。その注ぎのささげ物はぶどう酒で、一ヒンの四分の一である。<sup>14</sup> あなたがたは、神へのささげ物を持って行くその日まで、パンも炒り麦も新穀も食べてはならない。これは、あなたがたがどこに住んでいても代々守るべき永遠の掟である。

束を揺り動かした時には、全焼のいけにえを献げます。雄の子羊です。それから、穀物の献げ物。そして、注ぎの献げ物をです。そして、これが初穂の祭りとして記念するために、この祭りの前に、パンにして食べたり、入り麦、あるいはそのまま食べたりしてはいけません。主のいのちを表しているのですから、それに連なることによるのみ、私たちが生きることができます。

### 3B 五旬節 15-22

<sup>15</sup> あなたがたは、安息日の翌日から、奉献物の束を持って行った日から満七週間を数える。<sup>16</sup> 七回目の安息日の翌日まで五十日を数え、あなたがたは新しい穀物のささげ物を主に献げる。

五旬節です。五旬というのは五十日のことですが、それは初穂の祭りから7週を数えた日数です。ところで、先ほどから七という数字がたくさん出てきているのに、お気づきでしょうか。七日目の安息日、七日間の種なしパンの祝い、そして七週間後の五旬節です。七は、主ご自身のことを表しています。主のみわざが完全であり、完成されていることを示します。このときには、小麦の収穫の初穂を、主の前におささげします。

<sup>17</sup> あなたがたの住まいから、十分の二エパの小麦粉にパン種を入れて焼いたものを二つ、奉献物としてのパンとして持って行く。これは主への初物である。

パンを二つ、主の前にささげます。不思議なことに、このパンにはパン種が入っています。ふわふわとした、私たちが普通に見るパンです。これはなぜでしょうか？また、なぜ二つのパンなのでしょう？

この五旬節のときに、ある大きな出来事が起こったことを思い出してください。主イエス様がよみがえられ、弟子たちの前に四十日間現われて、天に昇られました。そして彼らは祈り始めました。十日後、五旬節のときに、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こりました。そして、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまりました。そして彼らは聖霊に満たされて、外国の言葉で話し出したのです。この日に、ペテロの説教を聞いて、3千人が弟子となり、バプテスマを受けました。そうです、教会が誕生したのです。したがって、五旬節は、聖霊が降って、教会が誕生することを予め示していたのです。

このパンにパン種が入っているというのは、まだ罪をこのからだに宿す私たちの間に、キリストが宿ってくださり、キリストのからだ形成されていることを示しています。私たちは不完全ですが、その不完全な中にキリストがおられるのです。だからこそ、私たちはキリストが愛されたように、互いに愛し合いなさいと命じられています、「クリスチャンなのに、なぜあの人あんなことするのかしら？」と思ったら、「その人を愛するために、あなたは召されているのです。」ということなのです。

そして「二つのパン」であります、これは、ユダヤ人と異邦人という二者が、キリストの十字架によって一つにされたことを意味しています。パウロは、エペソ書2章で、「エペ 2:14-15 実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し、様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、この二つをご自分において新しい一人の人に造り上げて平和を実現し、」と言いました。キリストにあって、ユダヤ人も異邦人も、隔てなく交わりをすることができます。同じようにキリストが私たちの平和であり、二つのものを一つにしてくださいました。ですから、私たちは教会において交わるのです、一つになって結ばれて平和を楽しむのです。

<sup>18</sup> そのパンと一緒に、主への全焼のささげ物として、傷のない一歳の雄の子羊七匹、若い雄牛一頭、雄羊二匹、また、主への食物のささげ物、芳ばしい香りとして、彼らの穀物のささげ物と注ぎのささげ物とを献げる。<sup>19</sup> また、雄やぎ一匹を罪のきよめのささげ物とし、一歳の雄の子羊二匹を交わりのいけにえとする。<sup>20</sup> 祭司はこれら二匹の雄の子羊を、初穂のパンと一緒に、奉獻物として主の前で揺り動かす。これらは主の聖なるものであり、祭司のものとなる。

すべての種類のいけにえを献げます。全焼のいけにえ、罪のきよめのささげ物、そして、交わりのいけにえです。数も増えています。全焼のいけにえに至っては、子羊七匹を用意します。過越の祭りがキリストの流された血、種なしパンの祝いが罪の除去、初穂の祭りがキリストの復活を示しているなら、そのキリストのからだが生ずるのを示すのが五旬節です。教会は、それだけ人々の間に広がることを予期しているかのようです。

<sup>21</sup> その同じ日に、あなたがたは聖なる会合を召集する。それは、あなたがたのためである。いかなる労働もしてはならない。これは、あなたがたがどこに住んでいても、代々守るべき永遠の掟である。<sup>22</sup> あなたがたの土地の収穫を刈り入れるときは、刈るときに畑の隅まで刈り尽くしてはならない。あなたの収穫の落ち穂も集めてはならない。貧しい人と寄留者のために、それらを残しておかなければならない。わたしはあなたがたの神、主である。」

収穫のときに、イスラエル人は、貧しい人、在留寄留者の人たちを顧みなければいけないことを教えられています。畑の隅々まで刈り取ることなく、それは残しておき、貧しい人たちが食べることができるように残しておきます。同じように私たちは今、教会の中に恵みを分かち合っていくべきで

す。主に献げながら、それをなるべく多くの人々に届くようにしてあげないといけません。